

# 水害ハザードマップを 作成しました！

～1000年に1回程度の大雨から  
大切な命を守るために～

近年、全国各地で想定を上回る大雨が多発していることから、平成27年に水防法が改正され、国と愛知県が想定し得る最大規模（1000年に1回程度）の大雨を前提とした洪水浸水想定区域を公表しました。それに伴い、本市では、新たな浸水想定に対応するために、従来の洪水ハザードマップを更新し、水害ハザードマップを作成しました。また、市HPでデータ版（全体マップ、小学校区単位で拡大したマップなど）を掲載しています。

問 危機管理課（☎62-1190）



## 主な変更点

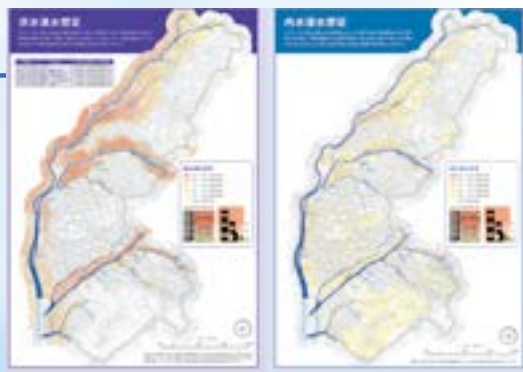
### 1 浸水想定が変更になりました

これまでの洪水ハザードマップは「50～100年に1回程度の確率で発生する大雨」を想定していましたが、今回の水害ハザードマップでは、国の矢作川、愛知県の境川、逢妻川、猿渡川などが「1000年に1回程度の確率で発生する大雨」で増水し、水があふれたり、堤防が壊れたりしたときの浸水想定に変更となりました。

### 2 水害リスク別のハザードマップを掲載しました

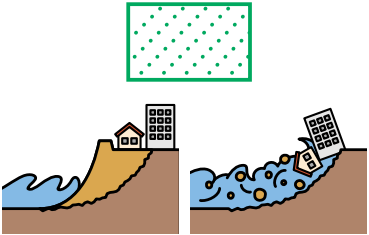
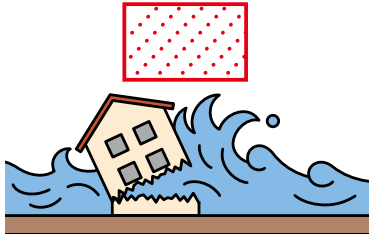
水害には、河川の氾濫や堤防の決壊により発生する「外水氾濫」と、水路や下水道などで排水しきれなくなるにより発生する「内水氾濫」があります。マップの表面にはこの2種類の氾濫を重ね合わせた浸水想定、裏面には外水氾濫による洪水浸水想定と内水氾濫による内水浸水想定を個別に掲載しています。

※内水浸水想定についても「1000年に1回程度の確率で発生する大雨」を想定しています。



### 3 特に早期の立ち退き避難が必要な区域を掲載しました

#### (1) 家屋倒壊等氾濫想定区域

河岸浸食（緑色）	氾濫流（赤色）
	
地面が削られ家屋は建物ごと崩壊するおそれがある区域	氾濫した洪水の流速がはやいため、木造家屋が倒壊するおそれがある区域

#### 【マップ上の区域の掲載例】



#### (2) 建物の最上階を越える浸水が予想される区域

この(1)(2)の区域は、建物自体の安全確保ができないため、市からの避難情報などが発令された場合には、早期に浸水区域外の安全な場所へ立ち退き避難してください。

いざというときに慌てないためにも、この機会に水害ハザードマップを確認し、  
常日頃から災害時の行動をイメージしておきましょう。